

高砂ブロック活動報告 令和元年度

高砂再発見ウォーク in 高砂地区と他事業

『あなたは高砂の町の町名とその由来を知っている？』



高砂縁結び交流会 7月13日



高砂縁結び交流会 7月13日



高砂縁結び交流会 7月13日



中筋小学校児童との交流学習会 10月10日



中筋小学校児童との交流学習会 10月10日



中筋小学校校区老人クラブ連合

中筋小学校児童との交流学習会

日 時 令和元年 10月 10日 (木) 9時から 10時 30分頃
 集合場所 中筋小学校 2階会議室
 集合時間 8時 45分
 活動場所 体育館
 遊び道具 小学校で準備しています。

参加者氏名

項 目	担当地区名	担 当 者		
1	こままわし シニア 春日野	北所俊二	今津雅隆	藤井勝男
		田中栄二	曾我修二	
2	お平玉 シニア 春日野	広瀬公子	田中恒子	永井美早子
		居安里子	猪原真知子	堤 政子
		片山千鶴子 (西)		
3	けん玉 シニア 春日野	森本 勲	依田洋幸	小池淳子
		今津弘子	荘所千代美	
4	折り紙 テーブル 3個 500人会OB	玉垣尚之 (西)	高原敏子 (西)	砂川きみこ (西)
		高橋賢吉	東 博昭	真礼礼子
		松本 都	石盛明子	
5	おはじき テーブル 2個 一丁目	馬場久枝 (西)	高岡正博	真利一憲
		八束まり子	稲岡 勝	
6	あやとり 一丁目	植杉幸子 (西)	村山輝美	
		中垣タエ子	川本恵美子	

備考 ・担当地区外の参加者も1～6項目に参加して頂いて名前を記載願います。

・参加地区 中筋西 : 6名
 一丁目 : 7名
 春日野 : 16名
 500人会 : 5名 計 34名

中筋小学校児童との交流学習会 10月10日

令和元年11月吉日

ころ豊かな人づくり500人委員高砂OB会 会員各位 様

ころ豊かな人づくり500人委員東播磨OB会並びに500人委員会の皆様へ
ころ豊かな人づくり500人委員高砂OB会
会長 高橋 賢吉

高砂再発見ウォーク in 高砂地区のご案内

夏の暑さから朝晩は急に冬の寒さへと変わりつつある今日この頃、色んなことに取り組みであられることと思います。本年度の高砂再発見ウォークは高砂地区で行ないたいと思います。特に高砂町は町名が多数あります。「あなたは高砂の町名とその由来を知ってる?」と題し、史跡石柱・町名由来板巡りを行います。高砂歴史ガイドクラブの方に案内をして頂きます。ご参加の程、よろしくお願いたします。

記

開催目的 地区を決め、車の目線・速度ではなく歩く目線・速度で町を歩き、自分のまちを再発見していきます。歴史に造詣の深い方に案内をお願いし、名所旧跡巡りを行います。自分たちの町をもっと知ること、次へのステップにしていきたいと思っています。今回は町名由来板がある29町巡りをします。(ただし、全部は回れません)

開催日時: 令和元年12月8日(日) 9:30~12:00(歩く時間は2時間程度)
9:15集合 9時30分から説明・出発
12時 高砂来て民家で解散(高砂来て民家祭りをしています)

開催場所: 高砂市高砂町内

会費: 無料

集合場所: 高砂市サンモール跡南側駐車場

高砂市高砂町栄町373

なお、OB会の方はウィンドブレーカー(お持ちの方)をお持ちください

追伸 当日雨の場合、少雨決行かの連絡は当日7時頃にさせていただきます。

連絡先 高橋賢吉 PCアドレス takasagodaikichi@gmail.com

FAX 079-443-3332

携帯 090-4904-4812

出席連絡書(〇印を入れて12月1日までに返信ください)

出席します(高砂OB会以外の方はブロック名(団体名)連絡先もご記入ください)

ブロック名(団体名) _____

氏名 _____

緊急連絡先(携帯番号) _____

高砂再発見ウォーク

～あなたは高砂の町名とその由来を知ってる?～

— 今回は、町名由来板がある29町と文化財の一部巡りの巻きです —

開催日時 令和元年12月8日(日)9時30分~12時(歩く時間は2時間程度)

集合9時15分 9時30分から説明・出発

解散12時 高砂来て民家(高砂来て民家祭りをしています。自由参加です)

会費 無料

募集人数 30名程度(小学生は保護者同伴でお申し込みください)

集合場所 高砂サンモール跡南側駐車場(高砂市高砂町栄町373)



主催 ころ豊かな人づくり500人委員高砂OB会

(東播磨青少年本部が事務局の東播磨OB会の高砂地区の団体です。)

お問い合わせ先 高橋賢吉 090-4904-4812

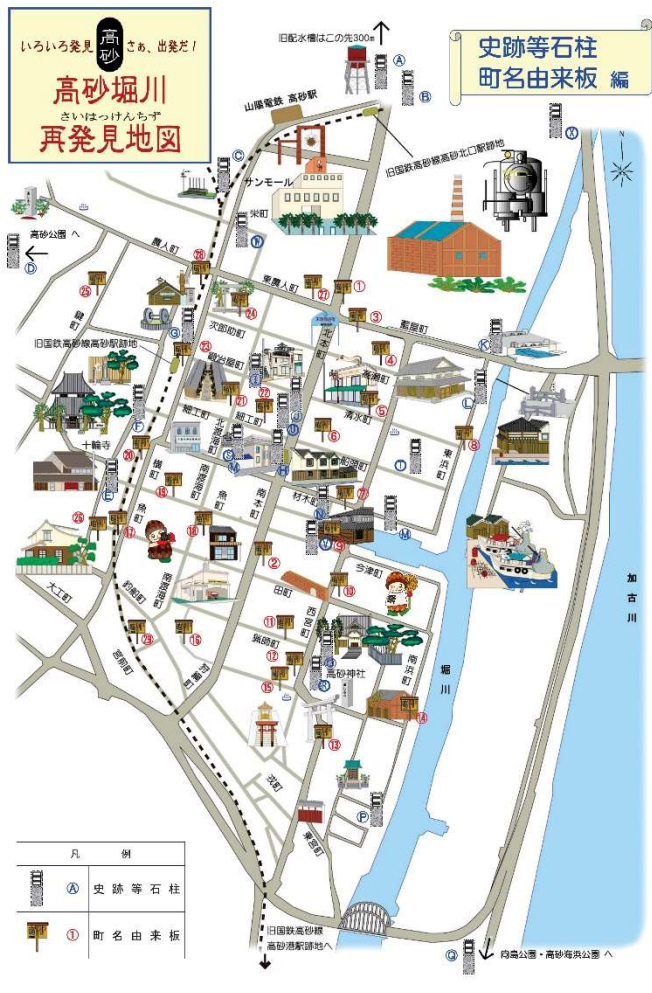
※ 小雨決行予定ですが、当日、雨模様の場合は連絡いたします。

お申し込み先 メールかFAXにて、住所・氏名・緊急連絡先として携帯番号をお書きの上お申し込みください。(携帯がない場合は連絡のつく番号を記入ください)

500takasago.obkai@gmail.com FAX 079-443-3332

※ ご記入いただいた個人情報は、本事業以外で使用することはありません。

高砂再発見ウォーク in 高砂地区 12月8日



■ 史跡等石柱

④ 旧朝日町浄水場配水塔 (H25.3 設置)
 この取水塔は、この地にあった朝日町浄水場から高砂町へ給水する目的で、築造された。水道の給水開始は、大正 13 年 (1924) 1 月 1 日で、県下でも有数の歴史を誇るものである。その後、事業の発展に伴う給水量の増加により、浄水塔は、昭和 41 年 (1966) 7 月 8 日に、朝日町浄水場から米田水運地へと移ったが、高砂市水道事業創設の記念として、取水塔が残された。
 平成 15 年 (2003) 3 月に国登録有形文化財に指定された。
 概要 高さ 26 メートル 直径 6.0 メートル
 水深 8.8 メートル 容量 200 トン
 材質 鋼鉄製 費用 20,304 円
 完成 大正 12 年 (1923) 10 月 25 日



⑤ 山陽電鉄旧高砂駅跡 (H25.3 設置)
 大正 12 年 (1923) 8 月 19 日 神戸延岡電気鉄道開業と同時に高砂町駅として設置。
 大正 14 年 (1925) 2 月 高砂町駅を電鉄高砂駅に改称。
 昭和 2 年 (1927) 4 月 1 日 神戸延岡電気鉄道が宇治川電氣により合併され、同社の駅となる。
 昭和 8 年 (1933) 6 月 6 日 宇治川電氣の飯沼組門が分業・譲渡され、山陽電気鉄道の駅となる。
 昭和 23 年 (1948) 3 月 1 日 急行停車駅となる。(急行は昭和 50 年 (1964) 設定消滅)
 昭和 27 年 (1952) 12 月 16 日 特急停車駅となる。
 昭和 33 年 (1958) 10 月 24 日 駅舎を西方に約 100m 移設、連絡地下道、道徳設置の完成。
 平成 3 年 (1991) 4 月 7 日 高砂高砂駅を高砂駅に改称。



⑥ 旧国鉄高砂線の分岐点 (H25.3 設置)
 大正 3 年 (1914) 播磨鉄道として開通した旧国鉄高砂線は、昭和 59 年 (1984) その生命を終えた。その後、市民の通勤と通学のための通学として歩道道に生まれ変わった。この三叉路を南へ行くと高砂駅を經由して高砂海水浴場へ。西へ行くと国鉄高砂工場や三菱重工業、神戸製鋼、キッコーマンなど大企業の立ち並ぶ工業地帯へと通じていた。当時の高砂の繁栄と発展に誇りを示した高砂線を記念に留められた。蒸気機、転車機をこの分岐点にモニュメントとして保存した。なお、高砂町工業館 (1960) には、法華山谷川を渡り、伊豫町南部の工業地へ専用線を延伸する計画があったことが記されていた。



⑦ 高砂公園 (H25.3 設置)
 旧雑形紡績の正門跡をそのまま残した公園である。昭和 40 年 (1967) に設立された健康知識高砂工場は、高砂の発展を支えてきたが、戦後の様相の構造変化に伴って、昭和 50 年代に入り工場跡地を余剰なくされた。その工場跡地は、現在、高砂中学校、西津住宅地として高砂公園になっている。高砂公園の東入口は工場の正門跡で、現在でもここから大木の並木路が続き、当時の面影をとどめている。当時、工場内には、松、ユーカリなどの大木が多数植栽され、木陰にはベンチが据えられており、当時の高砂町長が「この工場はインダストリアル・パークだ」と賞賛したことが容易に想像できる。



高砂再発見ウォーク in 高砂地区 12月8日

■ 町名由来板 (〒1560294 〒1524904 12月8日)

<p>① 北本町 設置場所：自治会掲示板</p> <p>高砂町の中央を南北に貫通する幹線道路沿いの町並。 御用達大年寄寺本番兵衛がいた。井本家は代々木納業を営む家傳で、砲隊益の木納専売制に深く関与し重宝万貫付租賦役に任命された。 文化年鑑(1804~18)、砲隊益奉若相寸録の建築で御宇山家堂が建てられ、土形・建物は井本家が提供した。 天保10年(1839)の家数82戸・人数358人</p>	<p>② 南本町 設置場所：自治会掲示板</p> <p>高砂町の中央を南北に貫通する幹線道路沿いの町並。 御用達大年寄高松兵衛、町守時衛屋重兵衛は大蔵元であった。 儒学者で山家堂の教授であった小林栢庵の生誕地である。 米穀積置のための屋敷地があった。 現在、当町には月百上人の補遺と云える月百庵(寺)がある。 天保15年(1844)の家数62戸・人数274人</p>
<p>③ 高瀬町 設置場所：屋台倉</p> <p>北尾川の北岸沿いに東西に連なる町並。 町名は寛(箱)屋が集住したこと由来する。 町人年寄栗屋 政左衛門は大蔵元であった。 町の東には百屋敷と呼ばれた砲隊益の蔵米の倉庫が南北二棟あり、加古川上流から地費を運搬する高瀬川の筏橋のため陣屋敷陣所が置かれた。 天保8年(1837)の家数83戸・人数390人</p>	<p>④ 高瀬町 設置場所：松田大神</p> <p>北尾川の南岸沿いに東西に連なる町並。 町名の由来は加古川川域の年貢米や各種の物資を下流に運んだら、上流から高砂港に投入した干船や百川舟などが上流に運ぶ際に酒造した高瀬川の月籠りがあったことによる。 現在北尾川は埋立立てられているが、そこに架けられている稲荷橋が当時の名残りをとどめている。 天保9年(1838)の家数44戸・人数200人</p>
<p>⑤ 清水町 設置場所：いこいの家</p> <p>北尾川から南へ二筋目の道路沿いに、東は東京町から西は北本町まで東西に連なる町並。 町名は北本町虎の清水(井戸)に由来する。 高砂は海浜に近く、清水の湧出する井戸が少なかったため、町民の飲料水として貴重なものであった。 また、高砂町成立時の移住者の自治地名とする語もある。 町人年寄田原兵衛は大蔵元であった。 天保9年(1838)の家数84戸・人数370人</p>	<p>⑥ 船頭町 設置場所：駐車場掲示板</p> <p>北尾川から南へ三筋目の道路沿いに、東は東京町から西は北本町まで東西に連なる町並。 町名は船頭が集住したこと由来する。 江戸時代初期に栄印船に乗り、遠く奥平アジアに運搬した天竺薬兵衛の生誕地である。 また、新善兵衛は新野辺町の浜に倉庫所田を開いた。この功績により倉沢の地を授けられ、町大年寄格になった。 天保14年(1843)の家数58戸・人数231人</p>
<p>⑦ 材木町 設置場所：堀川駐車場</p> <p>南尾川の北岸沿いに東西に連なる町並。 町名の由来は加古川上流から運ばれる材木の集積地であったことによる。 御用達大年寄清長兵衛、米沢又右衛門ほか四人の大蔵元がいた。 儒学者で山家堂の教授であった三浦松石・史漢学者美濃野進吉の父の美濃野秀房や唐人白中村海は当町の出身である。 天保13年(1842)の家数13戸・人数52人</p>	<p>⑧ 東浜町 設置場所：自治会掲示板</p> <p>北は高瀬町、南は材木町まで南北に連なる町並。 町名の由来は町場の東側に現在の堀川である高砂川沿いに位置したことによる。 船番場があり、問屋の蔵が建ちこんでいた。 金屋屋才衛門・小村物産兵衛・米屋兵衛は大蔵元で出世格でもあった。 天保9年(1838)の家数13戸・人数54人</p>
<p>⑨ 今津町 設置場所：自治会掲示板</p> <p>南尾川沿いに東西に連なる町並。 町名の由来は元禄年鑑(1615~24)砲隊益主本多忠政が加藤陣人らに命じて町づくりを行った際、加古川対岸の今津町から移住した者が多かったことによる。南尾川に面した船番場で、問屋の蔵が建ちこんでいた町であった。 木下堂村兵衛ほか3人の大蔵元がいた。儒学者で山家堂や砲隊益の教授であった曾好善吉・江村朝子は当町の出身である。 天保12年(1841)の家数13戸・人数46人</p>	<p>⑩ 白町 設置場所：自治会掲示板</p> <p>南尾川から南へ二筋目の道路沿いに連なる町並。 町名の由来は汐浜や高瀬であった当地の開墾にあたらせるために、加古川対岸の豊田・池田・長戸村などの農民を移住させて町を形成したことによる。 天保9年(1838)の家数63戸・人数240人</p>

7

<p>⑪ 旗師町 設置場所：駐車場</p> <p>東は西宮町から西は南本町まで東西に連なる町並。 町名の由来は旗師(旗師)が集住したことによる。 かつて、高砂町には御 旗 師 と呼ばれ御物として砲隊益に介錯を納めていた。 このことから高砂の御旗師は古くからの御村であったことがわかる。 天保9年(1838)の家数41戸・人数146人</p>	<p>⑫ 西宮町 設置場所：自治会倉庫</p> <p>南尾川の西沿いに北は白町から南は高砂町まで連なる町並。 町名は高砂の町の西に位置したこと由来する。 古くは松林があり、人家が散在していたところである。 安永2年(1773)の家数63戸・人数239人</p>
<p>⑬ 東宮町 設置場所：屋台倉</p> <p>高砂神社から南へ至る町並。 町名は高砂神社の東に位置したこと由来する。 当時の出身者に旗師の改良、エトロフ突馬など知られる上乗松右衛門がいた。 当町には、高砂神社、東 蔵 社がある。 また、現東宮町松田公園には真言宗南無寺(後の高砂小学校の前である聖徳小学校)があった。 天保9年(1838)の家数65戸・人数281人</p>	<p>⑭ 南浜町 設置場所：私邸</p> <p>御旗の南東部、現在の堀川である高砂川河口に位置し津波町から南へ連なる町並。 町名は町場の南の浜であったこと由来する。船番場があり、船所の蔵が建ちこんでいた町であった。 屋形七太夫・原次右衛門は幕末の高砂町の大年寄であり、大蔵元でもあった。また、儒学者三浦江高の生誕地である。川口喜新・堀村文彦・川口立舟・蒲井川馬があった。 安永2年(1773)の家数34戸・人数155人</p>
<p>⑮ 戎町 設置場所：屋台倉</p> <p>北尾川の南側に位置し、かつては砲隊益の蔵が建ちこんでいた町である。 町名の由来は高砂町成立時に高瀬川から集住したちによって兵衛御旗師を尊称して兵衛を連立し、海軍の御旗師にすることによる。 砲隊益の蔵を持つ家がなかった。 天保10年(1839)の家数150戸・人数608人</p>	<p>⑯ 神町 設置場所：自治会掲示板</p> <p>前場の南端に位置し、かつては海沿いで東は南本町から西は高瀬町まで連なる町並。 町名は津師が集住したこと由来する。 砲隊益の御旗師と兵衛御旗師など川に漁業の盛んな町であった。 天保9年(1838)の家数52戸・人数182人</p>
<p>⑰ 釣舟町 設置場所：寺院</p> <p>南本町の西に位置し、かつては海沿いで西尾川まで連なる町並。 町名は釣舟船の船持や船乗りが集住したこと由来する。 高砂町成立初期には釣舟町であったが、江戸時代中期までに高瀬町と北尾川町に分結したものと想われる。 江戸時代高砂が港町として栄え、江戸内河もたより遠隔まで多くの船客を運んだ大型の船が通行したことがしのばれる。 天保7年(1836)の家数59戸・人数227人</p>	<p>⑱ 南渡海町 設置場所：道路敷</p> <p>横町から南へかつての海岸にかけての町並。 町名は釣舟船の船持や船乗りが集住したこと由来する。 高砂町成立初期には釣舟町であったが、江戸時代中期までに高瀬町と北尾川町に分結したものと想われる。 江戸時代高砂が港町として栄え、江戸内河もたより遠隔まで多くの船客を運んだ大型の船が通行したことがしのばれる。 天保7年(1836)の家数59戸・人数227人</p>
<p>⑲ 桑町 設置場所：私邸</p> <p>今津町から西へ西尾川までの東西の町並。 町名の由来は瀬戸内からあがる魚介類を売渡する魚市兼や魚問屋があったことによる。 高砂町成立初期には桑町と高瀬町であったが江戸時代中期までに統合されたと思われる。 高砂町の大年寄を務めた神原屋平がいた。 天保9年(1838)の家数69戸・人数283人</p>	<p>⑳ 白旗町 設置場所：自治会倉庫</p> <p>高砂町成立時には小旗町と白旗町であったが、江戸時代中期には小旗町が廃止され、白旗町に統合された。 町名は横(東西)に連なる町であったこと由来する。 かつての寺町には十福寺とその塔が有る。十福寺には中世の高砂城主頼朝氏・上乗松 翁・菅野白華の高砂ゆかりの人々の墓、高井寺には天竺薬兵衛の墓がある。 天保9年(1838)の家数52戸・人数205人</p>
<p>㉑ 北渡海町 設置場所：駐車場</p> <p>横町から北へ二筋目の道路沿いに北本町から西へ西尾川までの東西の町並。 町名は北渡海町と云く多くの渡海船の船持や船乗りが集住したこと由来する。 高砂町成立初期には渡海町であったが、江戸時代中期までに北渡海町と南渡海町に分結したものと想われる。 天保7年(1836)の家数45戸・人数140人</p>	<p>㉒ 細工町 設置場所：あじさい公園</p> <p>西尾川から北へ二筋目の道路沿いに北本町から西へ西尾川までの東西の町並。 町名は細工職人が集住したこと由来する。 町内に問屋前があり、町役人として高砂町の天守将と川番助年寄2、3人が詰め、町政事務にあたった。 弘化3年(1846)の家数45戸・人数178人</p>

8

高砂再発見ウォーク in高砂地区 12月8日



高砂再発見ウォーク in 高砂地区 12月8日



青少年健全育成
街頭キャンペーン11月7日



向島清掃活動及び
ワークショップ1月5日

未実施事業

ワークショップから
2月7日

- 防災教育事業の開催

子ども食堂を通じて、防災教育や
生きる力アップ事業

小学校の土曜子ども教室を通じて、
防災教育や生きる力アップ事業

2020年

10月25日(日)～26日(月)

出雲大社や恋愛成就の大神として知られるパワースポットの八重垣神社を中心に研修旅行を計画
画 中

その他の事業計画 (未実施) と予告